医薬保健学域　保健学類　作業療法学専攻
【授与する学位】学士（保健学）

大学（大学院）の目的
金沢大学は，教育，研究及び社会貢献に対する国民の要請にこたえるため，総合大学として教育研究活動等を行い，学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。

学類（研究科）の教育研究上の目的
医薬保健学域は，高齢化・少子化や疾病構造の変化を背景に，日常生活の質［Quality of Life(QOL)］を重視した患者本位の全人的医療の提供のため，関連する医学，保健学及び薬学の分野が相互に協力して，統合的な医療教育を行い，人間性を重視し，総合的な能力を有する高度医療人及び研究者を養成することを目的とする。 保健学類は，保健学における基礎的及び専門的な知識・技術を修得し，豊かな人間性と高い倫理観を備えた高度な医療人としての看護師・保健師・診療放射線技師・臨床検査技師・理学療法士・作業療法士を養成するとともに，保健学の発展を担う教育研究者を養成する。また，医療人としての社会的使命感を涵養し，現代社会及び将来の保健・医療・福祉における諸課題を探求し解決できるような，総合的で学際的な保健学の能力を身につけさせることを教育研究上の目的とする。

ディプロマ・ポリシー（DP）

【卒業認定・学位授与に関する基本的考え方（前文）】

本学保健学類は，保健・医療・福祉における科学的な知識・理論・技術の修得と課題探究能力を養成し，豊かな教養と人間性を備えた高度専門医療人と保健学研究者を育成し，国民の医療・福祉の発展に寄与する人材を養成する。また作業療法学専攻として，1）人を思いやる優しい専門職としてのこころと態度を持つ人材，2）作業療法学の発展をリードすることができる有能な人材，3）作業療法の技術開発と有効なエビデンスの基礎を学び，実証できる知識と技術を修得した人材を育成する。

そうした人材を育成するために，本専攻では，1）正常な身体と発達の理解，2）疾病・障害の理解，3）作業療法士の役割と作業療法学の基礎の理解，4）疾患・障害の評価の理解，5）疾患・障害に応じた作業療法実践の理解，6）臨床的応用の修得，7）作業療法領域の研究技能の修得，における所定の課程を修め，この基本方針に従いこれらの能力を修得し，かつ本専攻の人材養成目標に到達し医療社会に貢献できる者に学士（看護学），学士（保健学）の学位を授与する。

【学生が身に付けるべき資質・能力】

1.保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得し，生涯教育を志向できる。
2.医療人として自主的に学修し，その専門分野の知識・技術を活用できる。
3.医療人としての使命・責任の自覚と職業・医療倫理医療制度の担い手として果たすべき使命と役割を理解する。
4.専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。
5.幅広い教養及び国際性を背景に，現代の多様な国内外の人々のニーズに応え，有効な医療環境を推進して患者中心の医療の担い手となることを志向できる。
6.英語による国際的なコミュニケーションを含み，多様な人々との人間関係を築くコミュニケーション力を修得する。

以上の能力を修得し，かつ各専攻の人材養成目標に到達し医療社会に貢献できる者に学士（看護学），学士（保健学）の学位を授与する。

カリキュラム・ポリシー（CP）

【教育課程編成に関する基本的考え方】

本学類では，ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために，全学共通科目，専門科目を体系的に編成し，講義，演習，実習等を適切に組み合わせた授業科目を開講する。その体系等を下記に示す。

1）正常な身体と発達の理解
目標Ａ 正常な人体の構造と機能を理解し，身体運動と日常生活活動と関連して理解する。
目標Ｂ 身体運動機能・知的機能の正常な発達を理解する。
2）疾病・障害の理解
目標Ｃ 健康・疾病・障害の概念および症候・診断・治療について理解する。
3）作業療法士の役割と作業療法学の基礎の理解
目標Ｄ 保健医療福祉の推進のために作業療法士が果たす役割を理解する。
目標Ｅ 地域における関係諸機関と対象者に対する調整の役割を理解する。
目標Ｆ 作業療法概念および作業療法の展開方法を理解する。
目標Ｇ 基礎作業療法学の理念を理解する。
4）疾病・障害の評価の理解
目標Ｈ 作業療法評価の概念を理解し，評価技術・技能を修得する。
5）疾患・障害に応じた作業療法実践の理解
目標Ｉ 作業治療学の基本的枠組みを理解する。
目標Ｊ 身体・老年期・精神・発達障害に関する知識・技術・技能を修得する。
目標Ｋ 生活および職業関連活動における作業行動の形成について理解する。
目標Ｌ 地域ケア活動の基本的な概念，展開のための能力を修得する。
6）臨床的応用の修得
目標Ｍ 臨床的観察力・分析力，そして治療計画立案能力・実践力を身につける。
目標Ｎ 作業療法を推進するための知識・技術・技能を統合する。8）
7）作業療法領域の研究技能の修得
目標Ｏ 研究の知識・技能を修得する。

【教育内容・教育方法（教育課程実施）に関する基本的考え方】

1. 教育内容

作業療法士は人と接する職業であるため，幅広い教養と知識を身につけることが大切である。保健・医療の領域で活動を行うために，医学の基礎知識の修得が重要で ある。専門基礎科目として，解剖・生理学，運動学などを学び，その後に臨床医学へと結びつけていく。評価学実習，総合臨床実習では病院，施設等で作業療法の実践を学び，知識と技能を修得する。

2. 教育方法

1年次から学内の講義・実習に加えて，学外にてリハビリテーションが行われている実際の現場を見学して学んでいく。学年進行にあわせて，作業療法学の専門科目が多くなり，3年次からは，学外の関連病院等での評価学実習を組み入れて，学内で学んだ知識と技術を実際の臨床現場を通して確認しながら進めていく。同時に面接等においては必要な対人交流技術を修得する。4年次では，これまでに修得した基礎科目及び専門科目を統合し，総合臨床実習及び卒業研究等を通して，作業療法士に必要な知識・技術を修得できる教育課程に編成している。

【学修成果の評価】

（1）授業科目において，成績評価の基準及び方法を明示し，それに基づいて学修成果を評価する。
（2）学士課程での学修成果は，総合臨床実習，卒業研究等を含めた修得単位数で行う。
（3）総合臨床実習及び卒業研究の審査は，筆記・口述試験，報告会等で実施する。

アドミッション・ポリシー（AP）

【入学者受入れに関する基本的考え方（前文）】

保健学類
保健学類は，「保健・医療・福祉における科学的な知識・ 理論・技術の修得と課題探究能力を養成し，豊かな教養と人間性を備えた高度専門医療人と保健学研究者を育成し，国民の医療・福祉の発展に寄与すること」を基本理念とする。教育目標は，1）現代社会の抱える諸問題を総合的に洞察できる能力の育成，2）日本語・外国語による討議・発表能力の育成，3）保健学における基礎的知識と専門的知識・技術の修得，4）保健学の知識・技術を活用した課題探究能力の育成，5）豊かな人間性と高い専門職業人としての倫理観など医療人としての社会的使命感の涵養，6）学際的保健学知識の統合による教育・研究能力の育成である。
保健学類では，国家試験受験資格の取得のためのカリキュラム編成が行われており，このため募集単位は看護学専攻，診療放射線技術学専攻，検査技術科学専攻，理学療法学専攻，作業療法学専攻の５専攻を設ける。

作業療法学専攻
作業療法士として必要な知識，技術，コミュニケーション能力を修得し，専門職としての能力を高め，研究する態度をもつ人材を養成する。本学の作業療法教育は脳機能解析学や運動器障がいをはじめ，生活能力回復学の領域において幅広い分野の専門教員の下に行われている。作業療法の技術科学を修得し，研究を進め，技術を開発し，社会に役立ちたい人の入学を希望する。卒業時には，作業療法士の国家試験受験資格を取得することができる。

【求める人材】

・たゆまず努力して，自分の能力を高めようとする人
・専門技術や知識を高めて，社会に貢献する意欲を持つ人
・病める人に対する医療のために，情熱を燃やすことのできる人
・人間の新たな能力を引出し活用する作業療法を修得し発展させたい人

【選抜の基本方針】

■一般選抜
基礎学力に加え，数学・理科及び英語の学力を重視する。理学療法学・作業療法学は２専攻併願で実施し，出願時に第２志望の専攻まで選択することができる。
■ KUGS特別入試（学校推薦型選抜）
基礎学力に加え，口述試験で医療人としての適性の評価並びに調査書等の出願書類による総合評価をする。
■帰国生徒選抜
理科と英語の学力に加え， 成績証明書（調査書）による総合評価をする。
■国際バカロレア入試
口述試験により理系能力及び医療人としての適性の評価並びに提出書類（志願理由書）等による総合評価をする。
■私費外国人留学生入試
学力検査により本学類の修学上に必要な基礎学力を有しているかを評価し，口述試験を通じて，志願者の日本語能力（対人コミュニケーション能力を含む），英語能力及び本学類で修学することや医療人として職務を遂行することの適格性及び適性を評価する。

【入学までに身に付けて欲しい教科・科目等】

理系科目と文系科目の均衡がとれた幅広い基礎学力の習得を望む。